

## 高金利通貨およびオーストラリア・ドル、 ニュージーランド・ドル、カナダ・ドル、 ノルウェー・クローネ、インドネシア・ルピア、中国・人民元 マンスリー・レポート



ブラジル



メキシコ



トルコ



南アフリカ



オーストラリア



ニュージーランド



カナダ



ノルウェー



インドネシア

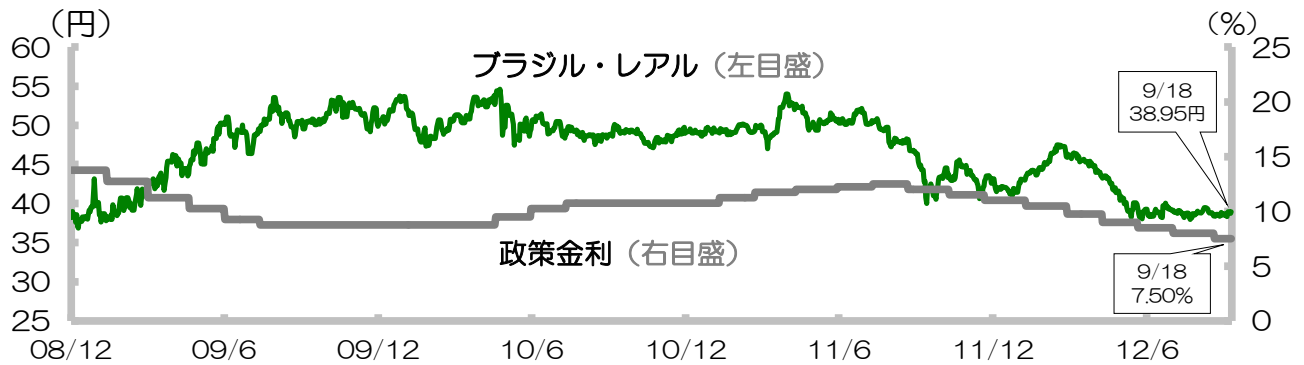


中国

- 当資料は、明治安田アセットマネジメント株式会社がお客さまの投資判断の参考となる情報提供を目的として作成したものであり、投資勧誘を目的とするものではありません。また、法令にもとづく開示書類(目論見書等)ではありません。当資料は当社の個々のファンドの運用に影響を与えるものではありません。
- 当資料は信頼できると判断した情報にもとづき作成していますが、内容の正確性、完全性を保証するものではありません。
- 当資料の内容は作成日における当社の判断であり、将来の運用の成果を示唆あるいは保証するものではありません。また予告なしに変更することもあります。
- 投資に関する最終的な決定は、お客さま自身の判断でなさるようお願いいたします。



## ブラジル



**【足元の金融市場の動き】～ ブラジル・レアルは欧州問題の進展などから堅調に推移 ～**  
 ブラジルでは4～6月期実質GDP(国内総生産)は+0.4%(前期比)と小幅の伸びにとどまりました。政策金利は0.5%引き下げられ7.5%となりました。ブラジル・レアルはECBによる南欧国債の買い入れ合意など欧州問題が進展したこと、利下げは今回で打ち止めとの見方が広がったことに加え、FOMCでの追加金融緩和の決定もあり堅調となりました。

**【当面の金利・為替の見通し】～ ブラジル・レアルは金利低下局面の転換で底堅い動きか ～**  
 景気については、鈍化が続いていますが、個人消費関連の指標に明るい兆しがみられることや、実質GDP成長率の先行指標となる月次の経済活動指数が上向いていることなど、約1年にわたる利下げの効果が浸透しつつあるようにみえます。また同政府は極端な自国通貨高を抑制する政策をとり続けており、輸出拡大に向けた配慮もみられます。財政政策により景気の下支えを続けていることや、海外からの直接投資資金の流入も続いていることから遠からず景気は最悪期を脱するものと思われまます。ブラジル・レアルは、利下げが終了もしくは最終局面を迎えているとみられることから、上値は限定的ながらも底堅く推移するとみています。



## メキシコ



**【足元の金融市場の動き】～ メキシコ・ペソは欧州問題の進展などから上昇 ～**  
 メキシコでは4～6月期実質GDPは+4.1%(前年比)で緩やかな上昇となりました。足元では鉱工業生産は堅調となりました。政策金利は据え置かれました。メキシコ・ペソは8月下旬には軟調だった原油価格や株価の下落を受けて売られた後、欧州問題の進展、FOMCでの決定を受けて反発しました。

**【当面の金利・為替の見通し】～ メキシコ・ペソは強含みに推移か ～**  
 景気については、個人消費が拡大しており、鉱工業生産も輸送用機器、建設、工業部門などの成長がみられました。インフレ圧力が徐々に強まっていることが警戒されており、政策金利引き下げの可能性は大幅に後退しています。メキシコでは自動車輸出が伸びており、日本からも生産拠点として進出が加速しています。メキシコ・ペソは強含みの展開を予想しています。良好な国内景気、原油価格の安定に加え、米国追加緩和により雇用環境の改善が期待され、このところ伸び悩んでいた米国での就労者による送金額の増加も期待されます。

データ出所: Bloomberg、目盛りは各月10日

●当資料は、明治安田アセットマネジメント株式会社がお客さまの投資判断の参考となる情報提供を目的として作成したものであり、投資勧誘を目的とするものではありません。また、法令にもとづく開示書類(目論見書等)ではありません。当資料は当社の個々のファンドの運用に影響を与えるものではありません。●当資料は信頼できると判断した情報等にもとづき作成していますが、内容の正確性、完全性を保証するものではありません。●当資料の内容は作成日における当社の判断であり、将来の運用の成果を示唆あるいは保証するものではありません。また予告なしに変更することもあります。●投資に関する最終的な決定は、お客さま自身の判断でなさるようお願いいたします。



## トルコ



**【足元の金融市場の動き】～トルコ・リラは売られた後、欧州問題の進展などから戻し横這いに～**  
 トルコでは4～6月期実質GDPは+2.9% (前年比)と減速しました。鉱工業信頼感は低下しましたが、消費関連の指標は堅調でした。政策金利は据え置かれ、貸出上限金利が1.5%引き下げられました。トルコ・リラは中銀総裁の緩和示唆発言で一時下げた後、欧州問題の進展、FOMC決定などから戻し横這いとなりました。

**【当面の金利・為替の見通し】～トルコ・リラは景気、経常収支改善で底堅い動きか～**  
 景気については、金融引き締めによる緩やかな減速から持ち直しに向かうとみています。悪化が続いていた経常収支も2か月連続で改善するなど最悪期は脱しつつあると思われます。トルコでは消費者物価が上昇傾向一服となっていることから今後は引き締め気味の金融政策を徐々に緩和するとの見方もあります。中央銀行は世界的金融緩和による短期資金の流入を警戒する一方、原油や穀物価格の上昇にも注視しています。このため政策金利の変更は行わず、流動性の調節によるやや緩和的な政策をとると考えられます。トルコ・リラはシリア・中東情勢も警戒されますが、景気の持ち直し期待や経常収支改善もあり底堅い動きになるとみています。



## 南アフリカ



**【足元の金融市場の動き】～南アフリカ・ランドは鉱山暴動の影響から下落するも、その後はレンジ内で推移～**  
 南アフリカの政策金利は5.0%に据え置かれています。南アフリカ・ランドの対円での動きは、鉱山で発生した暴動の景気への影響が懸念され、投資家のリスク回避姿勢が強まったことから軟調に推移しました。その後は、ECB理事会での合意を受けた欧州問題に対する懸念の後退やFOMCでの追加金融緩和策の決定がプラス材料となりましたが、鉱山ストライキの拡大が懸念されたこともあり、レンジ内での動きにとどまりました。

**【当面の金利・為替の見通し】～南アフリカ・ランドはレンジ内での推移か～**  
 景気については、製造業生産高が市場予想を下回り、鉱山のストライキの影響も懸念されることから、今後は減速する可能性があります。4～6月期実質GDPは+3.2% (前期比年率)となりました。インフレについては、減速傾向となっています。同国準備銀行は当面は政策金利を据え置くとみられますが、景気やインフレ動向を注視しつつ、将来的には追加利下げに踏み切る可能性もあると考えられます。南アフリカ・ランドは、経常収支の悪化がマイナス材料とみられますが、金利水準が相対的に高いこともあり、レンジ内で推移するとみています。

データ出所: Bloomberg、目盛りは各月10日

●当資料は、明治安田アセットマネジメント株式会社がお客さまの投資判断の参考となる情報提供を目的として作成したものであり、投資勧誘を目的とするものではありません。また、法令にもとづく開示書類(目論見書等)ではありません。当資料は当社の個々のファンドの運用に影響を与えるものではありません。●当資料は信頼できると判断した情報等にもとづき作成していますが、内容の正確性、完全性を保証するものではありません。●当資料の内容は作成日における当社の判断であり、将来の運用の成果を示唆あるいは保証するものではありません。また予告なしに変更することもあります。●投資に関する最終的な決定は、お客さま自身の判断でなさるようお願いいたします。



## オーストラリア



**【足元の金融市場の動き】 ~ オーストラリア・ドルは、欧州問題の進展などから買い戻され上昇 ~**  
 オーストラリアでは、4~6月期実質GDPが+0.6% (前期比、季節調整済)となり若干減速しましたが、個人消費、政府支出、輸出がプラスに寄与しました。政策金利は据え置かれています。オーストラリア・ドルは中国景気指標の悪化などから下げた後、欧州問題の進展、FOMCでの決定を受けて反発しました。

**【当面の金利・為替の見通し】 ~ オーストラリア・ドルは資源投資の行方、海外投資資金の動きからもみ合いか ~**  
 景気については足下で発表された経済指標には今後の景気鈍化を連想させるものも散見されます。また高水準を保った資源開発投資が転換期を迎えつつあるとの見方もあります。同準備銀行は欧州、中国の景気減速や先行き不透明感からアジア圏経済への下押し圧力がみられるとしています。また、国内については資源開発投資などから堅調としており、消費も強くインフレについてもやや楽観的で経済は潜在成長率に接近するとしています。政策金利については据え置かれるとみられます。オーストラリア・ドルは資源開発投資の行方や海外投資家のキャリートレード解消による資金引き揚げの思惑などからレンジ内でもみ合う動きが予想されます。



## ニュージーランド



**【足元の金融市場の動き】 ~ ニュージーランド・ドルは欧米の追加金融緩和を受けて上昇 ~**  
 ニュージーランドでは、直近の経済指標は小売や住宅関連を中心に概ね底堅い内容となりました。政策金利は、貿易相手国の景気減速が懸念されることや、国内のインフレ見通しが良好なことから据え置かれました。ニュージーランド・ドルは、月初にかけて大手乳製品会社が乳製品価格の見通しを引き下げたことや中国の景気減速懸念などから下落しましたが、その後は堅調な国際商品市況、ECBによる南欧国債の買い入れ合意や米国の追加金融緩和などを受けて反発しました。

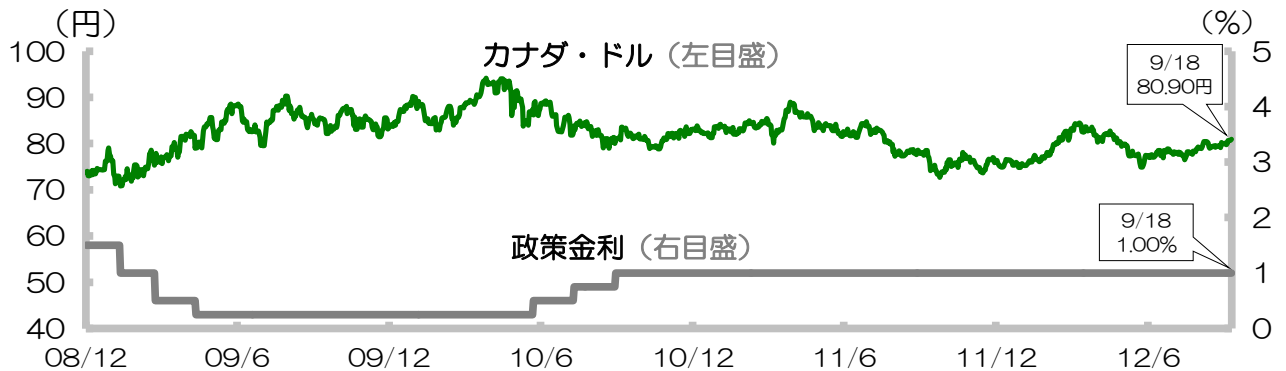
**【当面の金利・為替の見通し】 ~ ニュージーランド・ドルは、世界的な金融緩和の流れから底堅く推移か ~**  
 景気については、良好な住宅市況やクライストチャーチでの大地震からの復興需要が期待される一方で、緊縮財政による景気の下押しや自国通貨高による国内産業への影響もあり、緩やかな回復にとどまるとみえています。政策金利は、海外の景気見通しが不透明なことやインフレ期待が抑制されていることなどから、当面据え置かれるとみえています。ニュージーランド・ドルは、主要国が金融緩和を実施している一方、相対的に金利水準が高いこともあり、底堅く推移するとみえています。

データ出所: Bloomberg、目盛りは各月10日

●当資料は、明治安田アセットマネジメント株式会社がお客さまの投資判断の参考となる情報提供を目的として作成したものであり、投資勧誘を目的とするものではありません。また、法令にもとづく開示書類(目論見書等)ではありません。当資料は当社の個々のファンドの運用に影響を与えるものではありません。●当資料は信頼できると判断した情報等にもとづき作成していますが、内容の正確性、完全性を保証するものではありません。●当資料の内容は作成日における当社の判断であり、将来の運用の成果を示唆あるいは保証するものではありません。また予告なしに変更することもあります。●投資に関する最終的な決定は、お客さま自身の判断でなさるようお願いいたします。



## カナダ



### 【足元の金融市場の動き】～カナダ・ドルは米国の追加金融緩和などを受けて底堅く推移～

カナダでは、4～6月期実質GDPが+1.8%（前期比年率）となり、市場予想をやや上回りました。住宅、企業部門の投資や在庫投資などが成長に寄与した一方、純輸出がマイナスに影響しました。7月の消費者物価指数は+1.3%（前年比）となり、依然として低い水準にあります。政策金利は据え置かれました。カナダ・ドルは、9月初にかけてやや弱含みましたが、ECBによる南欧国債の買い入れ合意や米国の追加金融緩和などを受けて反発しました。

### 【当面の金利・為替の見通し】～カナダ・ドルは米国の追加金融緩和から底堅く推移か～

景気については、個人消費や企業投資などを中心に緩やかに回復していくとみられます。ただ、家計債務が増加しており、個人消費への影響が懸念されます。政策金利については、中央銀行は引き続き現在の緩和政策の解除について言及しているものの、米国が追加金融緩和を実施したことや自国通貨高による国内産業への影響を懸念していることもあり、当面は据え置かれるとみています。カナダ・ドルは、米国の追加金融緩和に加えて、堅調な原油価格、中央銀行による金融引き締めバイアスの維持もあり、底堅く推移するとみています。



## ノルウェー



### 【足元の金融市場の動き】～ユーロに連動して堅調に推移～

ノルウェーの政策金利は1.50%に据え置かれました。ノルウェー・クローネの対円での動きは、ECBによる南欧国債の買い入れに向けた協議が合意されたことなど、欧州問題に対する懸念の後退とともに堅調に推移したユーロに連動して上昇しました。その後は、国内のインフレ減速を受けて上昇一服となる場面がありましたが、米国で追加金融緩和策が決定したこともあり、堅調に推移しました。

### 【当面の金利・為替の見通し】～ノルウェー・クローネはレンジ内で推移か～

景気については、小売売上高や鉱工業生産が鈍化するなど、欧州景気の悪化や通貨高の影響による減速がみられます。4～6月期実質GDP（石油および海運を除くメインランド）は+1.0%（前期比）と減速しました。同国中央銀行は、当面、現在の政策金利を維持し、国内の景気動向に加えて上昇基調が続く住宅価格、ユーロに対し高値圏にある為替動向を注視するとみられます。ノルウェー・クローネは、同国の景気回復は極めて緩やかとみられますが、財政・経常収支が黒字と健全であることなどから、レンジ内で推移するとみています。

データ出所: Bloomberg、目盛りは毎月10日

●当資料は、明治安田アセットマネジメント株式会社がお客さまの投資判断の参考となる情報提供を目的として作成したものであり、投資勧誘を目的とするものではありません。また、法令にもとづく開示書類（目論見書等）ではありません。当資料は当社の個々のファンドの運用に影響を与えるものではありません。●当資料は信頼できると判断した情報等にもとづき作成していますが、内容の正確性、完全性を保証するものではありません。●当資料の内容は作成日における当社の判断であり、将来の運用の成果を示唆あるいは保証するものではありません。また予告なしに変更することもあります。●投資に関する最終的な決定は、お客さま自身の判断でなさるようお願いいたします。



## インドネシア



**【足元の金融市場の動き】～インドネシア・ルピアは、米国の追加金融緩和を受けて反発～**

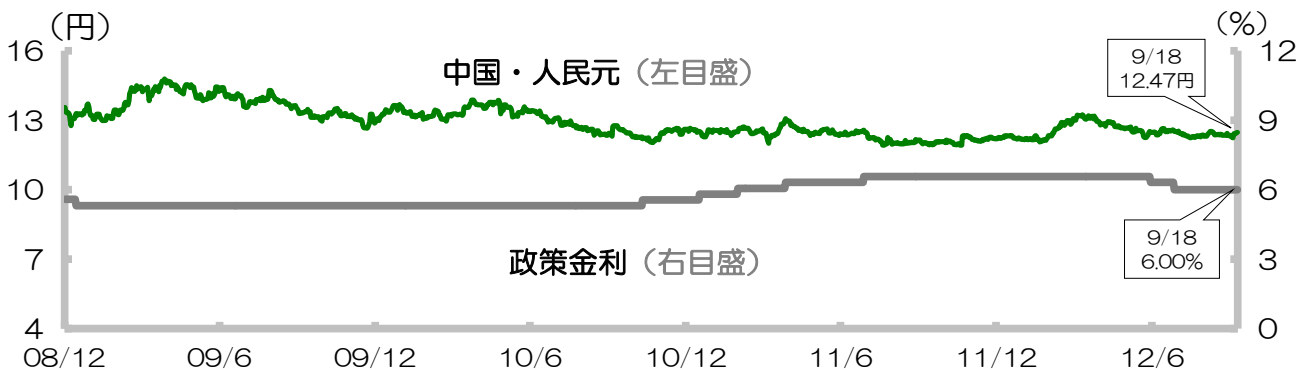
インドネシアでは、8月の消費者物価指数は+4.58%（前年比）と小幅に加速しました。8月の消費者信頼感指数は1月以来の高水準となり、内需を中心とした国内景気の堅調さが窺われました。政策金利については、据え置かれました。インドネシア・ルピアは、貿易収支が4カ月連続の赤字となるなどファンダメンタルズの悪化に加えて、通貨安を警戒した外国人投資家の資金流入が停滞したこともあり弱含みましたが、米国の追加金融緩和の実施を受けて反発し、ほぼレンジ内での推移となりました。

**【当面の金利・為替の見通し】～インドネシア・ルピアは、外部環境の改善から底堅く推移か～**

景気については、個人消費やインフラ投資などの内需を中心に堅調に推移するとみられます。ただ海外の景気減速を背景とした貿易および経常収支の悪化は当面続くと考えられます。政策金利については、通貨安に対する懸念から据え置かれるとみられています。インドネシア・ルピアは、経常収支の赤字傾向はマイナス材料ですが、米国の追加金融緩和によるリスク回避姿勢の後退や堅調な国内景気を背景とした海外からの資金流入、中央銀行による自国通貨下支えなどもあり、底堅く推移するとみえています。



## 中国



**【足元の金融市場の動き】～中国・人民元は米国の追加金融緩和を受けて小幅に反発～**

中国では、9月の製造業PMIが49.2となり、景気拡大の節目となる50を再び下回りました。その他の経済指標についても、景気減速を示す指標が多くみられ、特に貿易統計では、輸入が前年比でマイナスとなりました。中国・人民元は、国内の景気減速に伴う先安懸念がある一方、中国政府・人民銀行が為替市場の安定化を志向していることや米国の追加金融緩和が支援材料となり底堅く推移しました。

**【当面の金利・為替の見通し】～中国・人民元は国内の景気浮揚策への期待から底堅く推移か～**

景気については、減速傾向が続いています。9月に入り、中国政府が許可した総額1兆元規模のインフラ投資が景気を下支えするとみられますが、主要輸出先である欧州では景気減速が長期化するとみられ、景気の回復は従来に比べて緩やかなものになると考えられます。金融政策については、景気浮揚の観点から当面緩和的な政策がとられるとみえています。中国・人民元は、景気浮揚策への期待に加えて欧州債務問題の進展、米国の追加金融緩和の実施などを受けて投資家心理が改善していることもあり、底堅く推移するとみえています。

データ出所: Bloomberg、目盛りは各月10日

●当資料は、明治安田アセットマネジメント株式会社がお客さまの投資判断の参考となる情報提供を目的として作成したものであり、投資勧誘を目的とするものではありません。また、法令にもとづく開示書類（目論見書等）ではありません。当資料は当社の個々のファンドの運用に影響を与えるものではありません。●当資料は信頼できると判断した情報等にもとづき作成していますが、内容の正確性、完全性を保証するものではありません。●当資料の内容は作成日における当社の判断であり、将来の運用の成果を示唆あるいは保証するものではありません。また予告なしに変更することもあります。●投資に関する最終的な決定は、お客さま自身の判断でなさるようお願いいたします。